

令和2年お茶づくり技術情報 (No.11)

2020年9月14日
佐賀県茶業技術協会
佐賀県茶業試験場

1. 今後の管理

本年は、梅雨時期が平年より長く、秋芽が徒長的に生育した園が散見される。さらに、高温による葉焼けや台風による葉傷みが多く見られるため、特に防除を確実に行う。また、今後の気象予報は高温傾向であり、再萌芽の可能性も高くなるため、秋整枝の時期は気象状況に注意して決定する。

1) 秋整枝

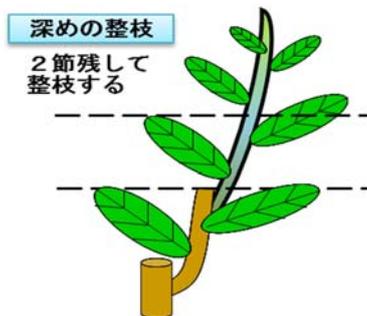
(1) 整枝の時期

- ・秋芽の生育が停止する時期に行う。
(平均気温：18～19℃以下が目安、例年10月上中旬ごろ)
- ・整枝の時期は、越冬芽の大きさが小さい場合に早く、大きい場合は遅らせる。
(芽が大きいと再萌芽のリスクが高まる)
- ・早生品種(さえみどり等)や幼木園、更新園は、比較的低温の時期まで芽が生育するため、整枝を遅らせる。
- ・秋芽が繁茂した茶園では、一度に深い位置で整枝すると日焼けを起こす場合があるため、本整枝の7～10日前に仮整枝を行う。

(2) 整枝の位置

- ・生育が良好な茶園では前回整枝面の2～3節上で(下図①)、生育が不良な茶園では軽くならず程度に整枝を行う(下図②)。
- ・一番働く葉(光合成能力の高い葉)が表面に出るように調節する。
※葉厚が厚く、色の濃い葉は光合成能力が高い。
- ・整枝位置は、茶園の端で高さを決めると低くなりがちのため、なるべく園の中央付近で決定する。

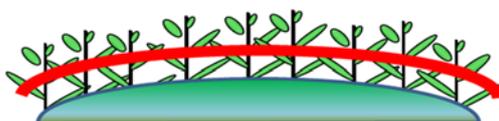
※雨が続いた時期に展開し、徒長して葉が薄くなっている場合は、秋整枝を高めにして光合成能力の高い葉が表面に出るようにする。



①生育良好園、幼木園
・葉層が厚く、芽数ある程度増やしても芽の生育が良い。



②生育不良茶園、三番茶摘採茶園
・葉層の確保を優先する。
・無理に深い整枝を行うと、芽伸びが不良
→収量・品質が低下



(秋整枝位置)
前回整枝面より2～3節程度上げた位置
(4～5cm程度上げた位置)



(秋整枝位置)
摘採面を軽くならず程度とし、頂芽を多く残す

2) 土壌・肥料

(1) 秋肥の施用

- ・秋肥の目的は、樹勢の回復と次年度の一番茶へ向けた養分蓄積、枝条の充実を図るためである。
- ・この時期の茶樹の養分蓄積は翌年一番茶の生育に大きく影響し、一番茶新芽に含まれる秋肥窒素の割合は12%程度（下表）と重要である。

表 各施肥時期の窒素が一番茶の新芽窒素に占める割合

施用時期	摘採前年			摘採当年	
	夏肥 1	夏肥 2	秋肥	春肥	芽出し肥
一番茶 (%)	1.3	3.3	12.3	14.0	12.8

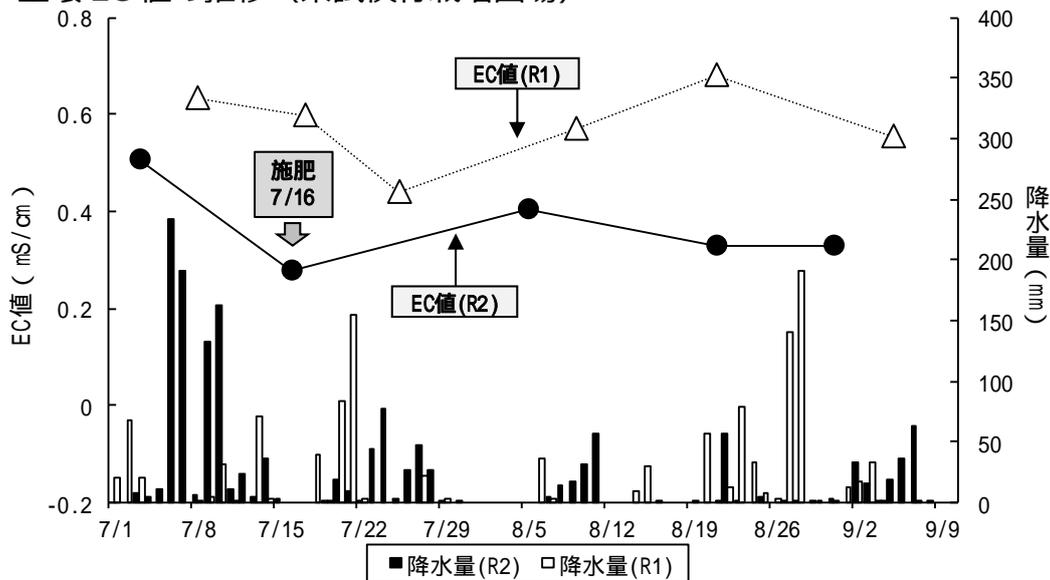
注1)〔烏山ら、2020〕より一部抜粋

注2) 施肥窒素以外の窒素には、有機物等に由来する土壌窒素や樹体内に貯蔵され新芽に移行した窒素が含まれる

(2) 施用時期

- ・平坦部では9月中下旬ごろ、山間部では9月上旬ごろまでに終わるようにする。

(3) 土壌 EC 値の推移（茶試慣行栽培圃場）



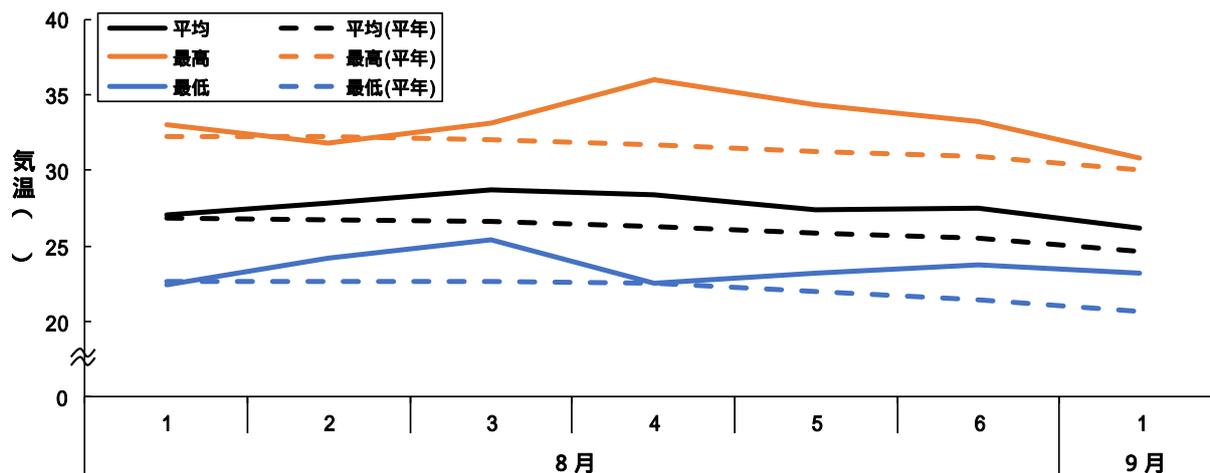
- ・土壌 EC 値は、追肥後（7/16）は上昇したものの、7月の降水量が平年の約3倍とかなり多かったことから、前年より低く推移している。

3) 病虫害防除

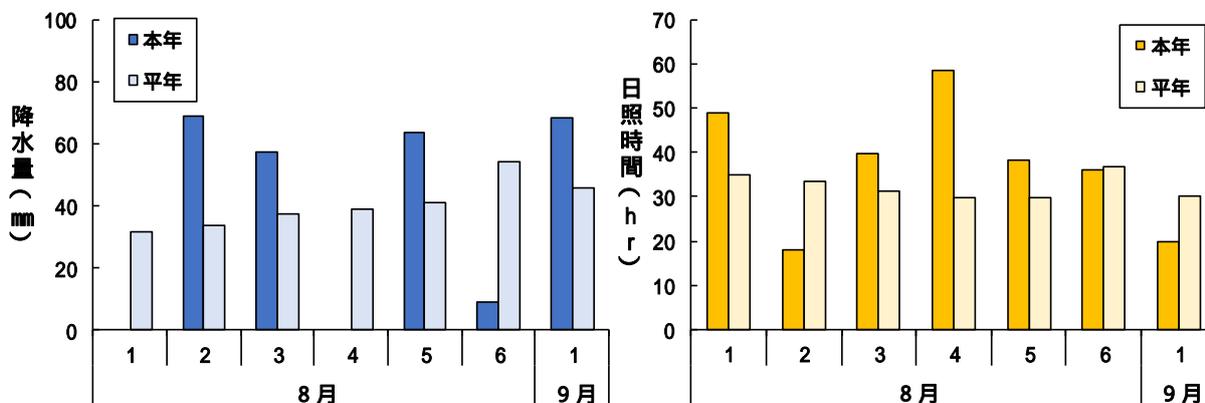
病虫害防除については、『令和2年度佐賀県施肥・病虫害防除・雑草防除のてびき』を参照してください。

2. 気象概況

1) これまでの気象 (2020年8月～)



(1) 平均気温は、8月第1半旬は平年並、それ以降は平年よりやや高い気温が続いた。特に、8月中旬の最高気温は平年より高く推移した。



(2) 8月の降水量は199mm (平年比86%)で平年よりやや少なかった。8月第1、4、6半旬はほとんど降雨がなかったが、第2、3、5半旬および9月第1半旬は平年より降水量が多かった。

(3) 8月の日照時間は239.7時間 (平年比122%)で平年より多かった。8月は第2半旬を除き、平年並か平年より多く、9月第1半旬は平年より少なかった。

2) 今後の気象

向こう1か月の天候の見通し 九州北部地方 (9月12日～10月11日)

福岡管区气象台

1か月予報 (令和2年9月10日発表)

1か月の平均気温・降水量・日照時間

	平均気温 (1か月)	降水量 (1か月)	日照時間 (1か月)
九州北部地方	低 20 並 30 高 50% 高い見込み	少 30 並 30 多 40% ほぼ平年並の見込み	少 40 並 30 多 30% ほぼ平年並の見込み

(1) 暖かい空気に覆われやすいため、平均気温は高くなる見込み。

(2) 降水量および日照時間は、ほぼ平年並となる見込み。